

# 東由利町報

No. 297 昭和54年12月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1日発行

## 町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心



No 297

12 / 1

## 《健康な体で入学を》

病気や虫歯をできるだけ早く治して、健康な体で入学を——と、来年4月から小学校に入学する子供たちを対象にした小学校就学時の健康診断が行われました。

来春小学生になるのは全部で72名。

検診カードを手にし、自分の順番が回ってくるのを不安気に待っている子、検診を受けている子の横から顔を出してお医者さんのしぐさを観察する子など、表情もいろいろ。

しかし、検診を終えてしまえばもう安心、すぐにいつもの「きかん坊」にかえり、元気いっぱい広い建物内を走り回っていました。

# 町功労者に小野・嶽石・佐藤の三氏

11月3日に晴れの表彰式



右から小野廣志氏、嶽石伊左武郎氏、佐藤歓次郎氏

昭和五十四年度の町功労者表彰式は、文化の日の十一月三日、前表彰者、町自治功労者、議会議員、各団体長など六十名余りが出席し、午前十一時三十分から町開発センター

で行われました。

今回表彰された方は、地方自治、産業、民生等の各分野に功労のあつた、小野廣志氏、嶽石伊左武郎氏、佐藤歓次郎氏です。

三氏は、町表彰条例に基づき去る十月二十三日に開かれた町功労者選考委員会の選考を受け、晴れの受賞となったもので、小松町長からそれぞれ、功績をたたえる表彰状並

びに町功労者章が贈られました。功労者の業績等は、次のとおりです。

## 小野 廣志氏

### 地域振興等に尽力

東田利町宿字幅野二十七(宿)の機にはその推進に努め、昭和三十五年五月二日生(七十七歳)

昭和二十六年四月に下郷村

議会議員に当選し、町村合併

の機にはその推進に努め、昭和三十九年七月に退任するまでの間に、議会総務常任委員長を歴任するなど、新村の発展に力を注いだ。

また、下郷村農業共済組合

## 嶽石伊左武郎氏

### 地方自治・産業の発展に尽力

東田利町館合字山本二(山崎)明治三十八年十一月二十日生(七十四歳)

昭和十七年六月に玉米村議会議員に当選して以来、昭和

四十七年七月までに通算二十三年の長い間議会議員の職にあり、この間、総務、土木、産業経済の各常任委員長を歴任し、戦中戦後の動乱、変革を経験しながら、恒に地方自

治の発展に努められた。

また、昭和二十七年十一月から三十四年九月までには、玉米・東田利村の教育行員、教育委員長として教育委政を担当したほか、東田利村農業委員、玉米農業協同組合理事の職にもあり、行政、教育、農業等、町政各方面の発展に尽力された。

## 佐藤 歓次郎氏

### 社会福祉の向上に尽力

東田利町蔵字新田八十七(蔵新田) 明治三十八年十一月二十五日生(七十四歳)

昭和二十二年四月から三十七年七月まで、下郷村議会議員、東田利村議会議員として

地方自治の安定伸長に努力し、町村合併にはその推進に努められた。

また、昭和三十一年十二月から五十二年十一月までの二十一年間は民生委員、三十七年十二月から五十二年十一月

までの十五年間と同総務、昭和五十年六月から現在まで町社会福祉協議会副会長として本町社会福祉向上に一貫して尽力されたほか、昭和四十四年六月から五十年九月までは東田利村(町)教育委員として教育行政にあたるなど、地方自治の振興に寄与された。

## 水道の凍結にご用心!

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなるこれからは、水道の凍結が心配です。気温がマイナス四度以下になると、水道が凍ったり破裂したりします。とくに、じゃ口や水道管の立ち上りの部分に多いものです。それぞれの家庭では不凍給水せんや水抜きせんの取り扱いに十分注意して凍結を防いでください。

この不凍式給水せん、水抜きせんは、水道を使わない時に凍結しやすい部分の水を抜いて凍らせないようにするものです。ですから、水を抜き忘れたり、完全に抜けていなかったりすると、その効果はありません。

それでも、もし凍らせてしまったら、水道管にタオルをかぶせ、その上からぬるま湯をかけて解かします。

急に熱湯をかけると、水道管やじゃ口が破裂することがありますので、注意してください。

どうしても解かすことができない時は、役場水道係に連絡してください。但し、作業は有料です。

〔別表〕 結婚カウンセルカード類別集計表 (54・11・16現在)

| (大 字)            | 黒瀬  | 田代  | 玉米  | 老方  | 蔵   | 法内  | 宿・杉森 | 計    |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 1)、花嫁を求める        | 25人 | 19人 | 67人 | 48人 | 27人 | 21人 | 46人  | 253人 |
| 2)、花婿を求める        | 1   | 3   | 3   | 10  | 3   | 3   | 6    | 29   |
| 3)、嫁に行ってもよい      | 3   | 5   | 18  | 16  | 9   | 3   | 13   | 67   |
| 4)、婿に行ってもよい      | 1   | 0   | 0   | 1   | 0   | 1   | 1    | 4    |
| 5)、1)・4) どちらでもよい | 2   | 0   | 4   | 0   | 1   | 0   | 8    | 15   |
| 6)、2)・3) どちらでもよい | 0   | 0   | 1   | 0   | 1   | 0   | 1    | 3    |
| 7)、まだ考えていない      | 8   | 12  | 17  | 1   | 8   | 5   | 1    | 52   |
| 合 計              | 40  | 39  | 110 | 76  | 49  | 33  | 76   | 423  |

また、相談所開設を前に同会では、町在住者及び町出身者の十八歳から三十歳までの独身者を調査、本人及び家族の了解を得た上で「結婚カウンセルカード」を作成してききました。

このカードには、住所、氏名、生年月日、職業はもちろん、花嫁(婿)を求める・嫁(婿)に行ってもよいの別、身長、

## 花嫁・花婿不足の解消を

### 役場に「結婚相談所」開設

町過疎対策協議会(会長小松町長)では、深刻な問題となっている町内の花嫁・花婿対策の一つとして、役場内に

く毎日開設され、相談には、過疎対策協議会事務局長の中西蔵之助氏(町企画室企画係長)があたります。

「東由利町結婚相談所」を開設することにし、大安吉日の十一月二十七日に開所しました。

このほか、同所の連絡所として公民館、農協本所、各支所、商工会でも相談の取り次ぎをすることになっていますので、多くの方が気軽に利用し

てくれることを望んでいます。

体重、趣味、特技、家族構成、資格・免許等が記載されているほか、本人及び住宅の写真が貼付されています。

このうち、十一月十六日現在でまとめられた町内在住者の地区別状況は、別表のようになっています。

花嫁を求めるが二百五十三名で、嫁に行ってもよいの六十七名の約四倍となっています。

## 夏でも水渴れ心配無用 沼・新沢に簡易水道完成

生活用水にわき水や沢水を利用していた、沼、新沢地区にこのほど簡易水道施設が完成、試験給水、水質検査等も終了し、十一月二十日から正式給水され、地域住民を喜ばせています。



安心して飲み使える簡易水道完成を喜ぶ住民

こうしたことから町では、昨年の高村、黒沢、奥ヶ沢地区で実施した事業と同じ、国県合せて補助率六十の補助事業「山村地域農林漁業特別

水量不足となったりするなど、地区住民からは「早期に水道布設」の要望が高かったものです。

こうしたことからは、真夏の渇水時でも断水する心配はないとされています。

現在町内で水道を利用して

### 出かせぎ者の 社保加入について

就労先事業所の社会保険に加入された方は、国保から離脱の手続きを、早目にすませて下さい。

(代理届可)

〔持参するもの〕  
国保被保険者証、認印、  
社保加入の証明になるもの。

住民課国保係

### 「灯油相談窓口」 を設置しました

このたび役場では「灯油相談窓口」を設置しました。

次のような事情で灯油の購入ができない方は、ご相談ください。

①他県又は他市町村から転入し、新規に注文したが、ことわられた方

②結婚等により新居をかまえ、新規に注文したがことわられた方

③販売業者の転廃業により購入できない方

④その他、何らかの事情により、供給をことわられた方

●相談先 東由利町役場 総務課総務係

(電話) 2110

七十二名となっています。

町では今後、未給水地区に水道を整備するため各地区で水源、水量、水質等の調査を実施し、各地域の実情を考慮しながら各種制度と照らし合せ、私たちが生活していく上で必要不可欠な水が安心して飲める簡易水道布設に取り組みでいくことにしています。

# 家屋密集地で火災発生！

田代地区で大火防止訓練



実践さながらの訓練が展開された大火防止訓練

区で大火防止訓練が行われま  
した。

この訓練は、町の防災計画  
に基づく訓練として、気象悪  
条件下の家屋密集地域での出  
火を想定し、消防団員の消防  
技術の練磨や地域住民の消防  
体制の確立及び防火思想の啓  
発を目的に実施されたもので  
す。

当日は、町消防団員、地元  
婦人消防隊、分署員、さらに  
今年七月結成されたばかりの  
役場特設消防隊、合せて二百  
三十名、それに、東北電力東  
由利出張所、小型ポンプ二十  
一台、自動車ポンプ四台、救  
急車などが出動し、実践さな  
がらの訓練を繰り広げました。  
風速十以上の南西の風が吹  
き、異常乾燥注意報・火災警  
報発令下の午前九時二十五分、

灯油（ポリ容器）を満載した  
軽トラックが大型ダンプカー  
に追突、軽トラックの二名が  
怪我し車内に閉じ込められて  
いるとの救急要請を受けて分  
署救急隊が出動、寸刻をへず  
軽トラックのエンジン部から  
出火して灯油に引火との通報  
を受けて待機消防隊が出動、  
必死の消火活動にもかかわらず  
近接の住吉小学校に延焼。  
さらに、ほとんど同時刻に台  
山の公民館でも火災発生——  
という想定のもとに救急活動、  
消火活動、住吉小児童の避難  
訓練を展開。

十時、消防隊総力をあげて  
の消火活動と、住民等の飛火  
警戒、後続隊の予備注水によ  
り、学校と住家一棟を焼失し  
たのみで被害を最小限度にと  
どめ鎮火、約三十五分間にわ  
たる訓練を終了しました。

寒さも一段と厳しくなり、  
各家庭では石油ストーブやこ  
たつなどの暖房器具を使用す  
ることから、今後は一年のう  
ちで最も火災発生の危険が多  
くなります。

また、これからは降雪も加  
わって消火活動もむずかしく  
なり、ちょっとしたことから  
大惨事になりかねません。

「使う火を消すまで離すな  
目と心」——火気の取り扱いに  
は、一人ひとりが注意して、  
「赤い炎の犠牲」にならない  
という日頃からしつかりした  
心がまえでのぞむことが必要  
です。

## 困ったときは

### 人権擁護委員に相談を

十二月四日から十日まで  
「人権週間」です。

子供からおとなまで、わ  
たしたち一人ひとりの「基  
本的人権」は、憲法によっ  
て保障されています。

ところで、人権にまつわ  
るトラブルは、家庭内のい  
ざこざをはじめ、噂の流布  
によるいやがらせ、近隣騒  
音、悪臭、私的制裁の問題  
など、日常生活の場で起き  
ることが多いのです。

そのため、それが人権上  
「不当」であるとかわかって  
はつきり「違法」であるとい  
えないような、判断のつきか  
ねるケースが多いことも事実  
です。

といって、そのまま放置し  
ておいて、重大な事態になっ  
てからでは不幸な結果を招き  
がちです。

このような人権問題を早期  
に解決し、被害者を救済する  
ために設けられているのが、

人権擁護委員制度です。

ふだんの生活で、これは  
人権問題ではないだろうか  
と感じたり、法律上どのよ  
うになるのかわからなくて  
お悩みの方は、気軽に人権  
擁護委員にご相談ください  
相談は無料で、むずかし  
い手続きもいりませんし、  
相談内容についてはかたく  
秘密を守りますから、心配  
はいりません。

人権擁護委員に相談なさ  
りたい方は、法務局又は役  
場住民課・戸籍担当におた  
ずねください。

## 町長日記

愉快な話題をお伝えします。

○弘前市の板垣重信さんか  
ら、創業五十周年と新社屋  
落成のお祝の案内を頂いて  
出席しました。

板垣さんは、島の千葉欽  
一さんの弟で、昭和三十三年に弘前に出、飲食業界に入った方です。その後二十  
年余りで今日の成功を勝ち  
得た事は御承知の方も多い  
と思います。現在、弘前市  
料理飲食業組合理事長、弘  
前津軽ライオンズクラブ会  
長、その他の公職を持った  
満四十八歳の働き盛り、店  
名は菊富士と言ひ、弘前市  
の繁華街にあります。新社  
屋は、一階が民芸調の食事  
処、二階は京都風の数寄屋  
造り、三階は凝ったデザイ  
ンの大広間と、弘前市内で  
は最高の和風レストランで  
す。外二店を営んでいます。

東由利出身者が、弘前市  
の料理飲食業界のリーダー  
となっておる事を眼の当り  
に拝見し感激を深くしまし  
た。板垣さんの長年の下積  
みに堪えた努力、持ち前の  
明るい人間性、創造の意欲、  
奥様の内助とお人柄等が相  
まって、今日の繁盛となっ  
たものと考えました。益々

の御発展を祈っております。

○東京の若柳喜久鳳という  
人から手紙が参りました。  
内容は——私は、田代石  
高の生れで佐藤三郎と申す  
者でございます。芸好きで  
早くから故郷を出まして役  
者となり、二十五年前には  
御里にも伺いましたが、只  
今では舞踊に専念しており  
ます。この度、私共の舞踊会  
を催す事になり、御里の方  
々にもお出頂き御高覧願え  
れば幸いに存じ御案内申し  
上げる次第でございます——  
石高に、旧家名「長十郎」  
という家がありまして、若  
柳さんはこの三男に生れ  
た人です。公演は、十月二  
十一日、浅草公会堂でした  
が、どうしても出席できず  
残念でした。

公演が終つて又手紙が来  
ました。

——この度は励ましのお電  
話、お祝を頂き厚くお礼申  
しあげます。おかげ様で盛  
会の裡に舞踊会を終えるこ  
とができました。今後益々  
精進し、お会いできる日を  
楽しみにしております——  
満五十一歳の好漢の活躍  
を祈る。

# 盛大に設立十周年を祝う

## 東由利中学校で記念式典

東由利中学校では去る十月三十日、PTAや同窓会員、来賓、前職員、在校生など約四百名が出席して「設立十周年記念式」を盛大に挙行了した。

同校は、子供の出生減にと

もない生徒数の漸減現象がおこつてき、村内に二校、中学校を分立させては中学校としての働きが維持できないなどの理由から、昭和四十四年、玉米、下郷両中学校を統合し、設立されたもので、校舎は、

寄宿舎、プールを含め、三年がかり、総額二億五千九百万円を投じて建築され、昭和四十六年九月に完成、現在に至っています。

この間、校舎施設内外の整備充実を図る一方、昭和五十一年には、第二十五回全国へ

き地教育研究大会が行われ、全国に東中の名を知らしめるなど、これまでに千五百三十二名の卒業生を世に送り出し、

勉学はもとより、スポーツ、文化等各分野に輝かしい成績を残し、今なお確実な歩みを続けています。

また、記念式を前に、表には「東由利中学校」、裏には「不憤不啓 不排不発」の文字が刻まれた、縦一・二、横二・四、厚さ六十センチの福島産の白御影石の、学校を象徴するにふさわしいりっぱな校門も建設され、十周年記念に花を添えました。

式典では、君が代斉唱のあと中山精一校長が「……十年の歳月を経たとはいうが、これは単なる「ひと区切り」であり、竹にたとえて申すなら

この十周年記念の巡り合いを機に、心を新にし、このたび建設された学校のシンボルであるりっぱな校門に恥じるこ

とのないよう、自主的精神にみちたたくましい社会人となるようお互いが切磋琢磨することをお互いに銘じてほしい」と式辞、つづいて、在校生を代表した生徒会長の小松大君が「……今ぼくたちは、玉中一、九〇二名、下中三、〇〇二名、東中一、五三二名

の先輩たちが築かれたすばらしい伝統を、この十周年を機に再度かみしめ、守り育み、発展させていくことを誓い、古代先住民が切り開き、戦後の開拓魂の流れるこの台山の地が決して汚されることなく、二十周年、三十周年へと引き

継がれていくよう頑張る」と力強くあいさつしました。

さらに、遠藤繁実行委員長のあいさつ、佐藤教育委員長の告辞、小松町長、長沢町議会議長からお祝いのことばがあり、全員で校歌を斉唱し、式を終りました。

このあと、町及び東中同窓会から在校生に記念品が贈られ、つづいて、在校生が、旧下郷、玉米両中学校の校歌を斉唱、畑山作栄君（一年）、佐々木百合賀さん（二年）の意見発表、吹奏楽部員による演奏などがあり、出席者全員が同校設立十周年を心から祝いました。



光陰矢の如し——暖冬異変で明けた昭和五十四年も、もうすぐ終ろうとしています。

まさに、激動の七〇年代」と言われた一九七〇年代の最後を飾るにふさわしいような、様々な事件が国内外を問わず起きた一年でした。

めまぐるしく変わる時の流れに、ちよつとわき見でもしようものならすぐその場に残されてしまふような、そんな感じにさせられてしまっています。なんとも忙しい世の中になったものです。

最近では、「地方の時代」ということがよく言われるようになりました。

来る一九八〇年代は、「安定成長の時代」、また、人によっては「低成長の時代」などともいわれます。

依然として余る米・農業、石油・エネルギー、物価、増税など、わたしたちの日常生活に大きな影響を及ぼす問題が山積されている中、何といわれる時代であつてもいいですが、来る一九八〇年代がよい年でありまう折るものです。



約4百人が出席して盛大な「設立10周年記念式」が挙行された



学校を象徴するにふさわしいりっぱな校門が建設され、10周年記念に花を添えた

## 昭和54年を ふり返って

「激動の時代」と言われた一九七〇年代最後の年も残すところあとわずか。まさに「激動」のことがピッタリするほど、国内外を問わず世間を驚かす様々な事件が起きた一年でした。

みなさんにとってはどのような一年だったでしょうか。

町ではこの一年、限られた財源を有効に活用し、生産基盤の整備を始め、交通、生活環境、教育、福祉など、あらゆる面に力を注ぎ、豊かな住みよい町づくりに努めてきました。

そこで、「安定感長の時代」と言われる、来る一九八〇年代もさらに躍進を図るよう、今年一年の町勢の主な動きをふり返ってみたいことにします。

### 「部落長」改め 「自治会長」に

一月

去る昭和五十二年九月十九日に行った部落長研修の席上、部落長という名称の変更について話題となり、意見交換した結果、町では今年から、大方の賛同を得て、部落長を自治会長に改めることにした。

### 初の農業視察研修 バス・岩手で実施

一月十六・十七日

単なる視察見学でなく、研修地の機構や組織などについて、わが町の現状と比較しながら意見交換を行ない、個々の経営を見直すとともに東田利農業の可能性を探ろうと、一月十六・十七日の二日



間、当町では初の農業視察研修バスが岩手県下で実施された。  
参加農業青年十六名。

### 二九名の保健推進員 に血圧計配布

四月十三日

循環器系疾患の予防には「血圧の管理」が大切。



町では、地域の人たちが可能な限り血圧を自己管理し、脳卒中などの病気を未然に予防してもらうと、四月十三日の町保健推進員会総会の席上二九名の推進員全員に、誰でも簡単に測れる「電子血圧計」を配付した。

### 学校教育の振興を 「教育研究所」設置

四月

学校教育に関する調査研究及び教職員の研修を行ない、町学校教育の振興を図ると、町では今年から新たに「教育研究所（所長―進藤町教育長）」を設置した。

変動する社会情勢の中にあつて「心豊かな人間を育てる」学校教育のあり方を探り、学習指導要領の移行措置にかかると合せ、その地域に合った教育の振興を図るとする教育研究所の活動に、大

### 人口流出に歯止めを 「過疎対策協議会」設置

四月

過疎化の進む本町にあつて、人口流出防止や農家の嫁不足問題解消など、総合的過疎対策のあり方を調査研究し、産業経済の発展と住民の生活文化の安定向上を図っていくと、町では、町及び各団体代表者、学識経験者などで組織する「東田利町過疎対策協議会」を設置した。

### 第一回・八塩町民 登山の会を実施

五月十三日



目前にありながら登る機会の少ない八塩山（標高七二三）に町民一堂で登り、自然に親しみながら体力づくりにつとめよう―と、第一回・八塩町民登山の会が、五月十

## 今年のあゆみ

- |         |                                            |
|---------|--------------------------------------------|
| 1月4・5日  | 新春座談会二地区で実施（八塩館・大蔵館）                       |
| 6日      | 町消防団出初め式（於・東中）                             |
| 7日      | 葉たばこ売上一億円突破記念大会（於・有鄰館）                     |
| 2月11日   | 出かせぎ者留守家族懇談会（於・有鄰館）                        |
| 18日     | 出かせぎ者短期研修会（於・都道府県会館本館）                     |
| 22日     | 肉用牛飼育講演会（於・有鄰館、講師・福島県畜産試験場長 吉田武紀氏）         |
| ※       | 町農近ゼミに農林水産大臣賞                              |
| 3月7・8日  | 北海道金町青年団一行15名来町                            |
| 12日     | 第二回定例議会始まる（昭和54年度一般会計当初予算額 19億2,922万2千円）   |
| 12日     | 収入役に小野丹左衛門氏を再任                             |
| 24日     | 水田利用再編対策自治会長会議                             |
| 31日     | 春のあらし大あばれ（町推定被害額2千5百万円）                    |
| 4月7日    | 春季大防火止訓練大琴地区で実施                            |
| 8日      | 県知事、県議会議員選挙（投票率82・89％）                     |
| 16日     | 社会教育委員に五氏委嘱（川尻幾郎氏・中山精一氏・石渡力造氏・小松義嗣氏・小野貞子氏） |
| 20日     | 自治会長会議（於・有鄰館）                              |
| ※       | 住吉小で学校給食に米飯を取り入れる（週二回）                     |
| ※       | 農村総合整備モデル事業実施計画策定に着手                       |
| ※       | 新農業構造改善事業に着手（初年度）                          |
| ※       | 土地改良総合整備事業に着手（初年度）                         |
| ※       | 第二次農構たばこ畑造成地に作付開始（田の沢地区3・6号、八塩地区4・2号）      |
| 5月5日    | 第十九回町青年大会（第一位 宿青年会）                        |
| 12日     | 朴の木沢放牧場開牧（21頭）                             |
| 21日     | 知事市町村訪問、県内のトップを切つて本町へ                      |
| 6月4日    | 片符沢縄文遺跡発掘調査開始（県文化課）                        |
| 13日     | 農林水産省畜産局長谷部技監、コンパネサイロ視察に来町                 |
| 24日     | 第八回町球技大会（約4千人が参加）                          |
| 27・28日  | 町敬老会（於・有鄰館、該当者4百69名）                       |
| 29日     | 自治会長研修（男鹿市へ）                               |
| 7月5・18日 | 訪ソ青年の船で阿部悟 さん、小松秀穂さんがソビエトへ                 |

三日に行われた。

当日は、空青く晴れわたり、風そよぐ絶好の登山日和で、小学校一年生から六十七歳のおじいさんまでの三十一名が参加、思い出に残る楽しい一日を過ごした。

### 初めて雨に見舞れた町畜産共進会

—六月二十六日—

今年の町畜産共進会は、六月二十六日に館合字上の代・旧玉米中グラウンドで開催された。

当日は、前日来の雨が降り止まず、二十四回目にして初めての雨中共進会となったが、昨年より十頭多い九十一頭が出陳され、畜産にかける農家の熱心さがうかがえた。



### 県営圃場整備は今年度で面工事完了

—六月—

昭和四十九年から始まった

県営圃場整備事業は、今年度、四億一千万円の事業費で高戸屋から地下の沢までの六十四畝が施行され、これによって計画された四〇一畝の面工事は全部終了した。

町内では、こうした圃場整備の進行に合せ、経営の近代化を図るため、トラクターや田植機、コンバイン、ハーベスター、農機具格納庫などの機械施設の整備が、各営農集団によってすすめられている。



### 国道一〇七・蔵工区も改良に着手

—六月—

本荘・横手にそれぞれ車で三〇分—をめぐり、町の中央を走る国道一〇七号線の改良工事が板戸、蔵の二地区ですすめられている。

板戸地区は今年、一一、三〇〇千円で、七四〇が幅員十一に改良され、昨年度改良の一、二四〇と合せ、

同地区二、九八〇が完了することになっている。

蔵工区は今年度から工事に着手、六〇、〇〇〇千円で横渡地内に橋梁一橋を新設。



### 小松無投票で四選町議は畑山氏当選

—七月二十八日—

八月十九日任期満了に伴う町長選挙並びに欠員一となっていた町議会議員補欠選挙が、七月二十八日に行われた。

結果、町長は小松現町長が無投票で四選、町議には畑山清一氏が初当選を果たした。

### 須郷農道が着工

—七月—

須郷と高屋を結ぶ、延長一、二〇〇の須郷農道が、団体営農道整備事業としてことし採択され、総事業費八、四〇

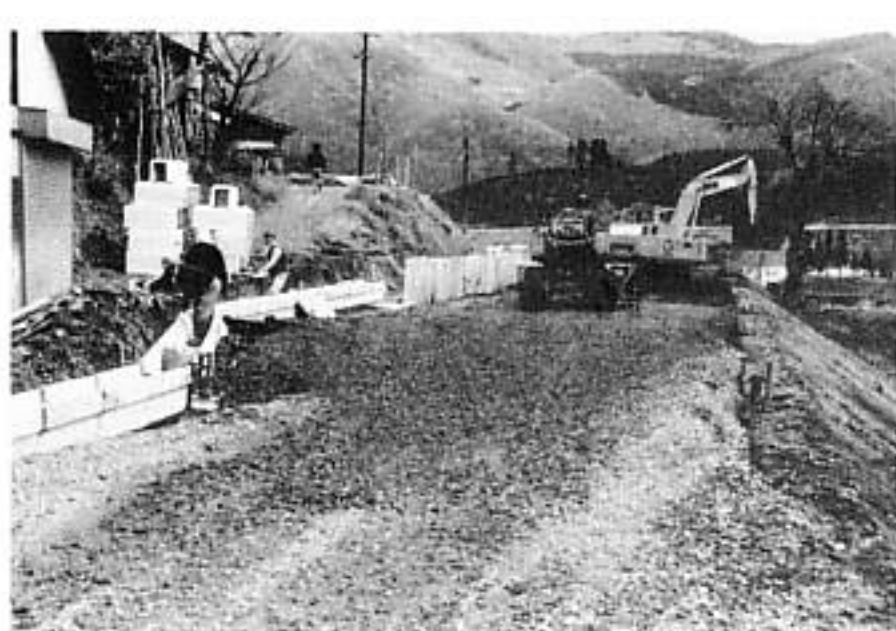
〇万円を投じ、三カ年計画で幅員五・〇に改良されることになった。

今年度は一、七〇〇万円で須郷地内三六二を改良。



### 町道大下線ミニ総パで改良

—七月—



杉森と畑村を結ぶ延長一、二七〇の町道大下線は、農村基盤総合整備事業（ミニ総パ）の集落道整備として今年から改良工事が始められた。

- |       |                                        |
|-------|----------------------------------------|
| 12日   | 町消防訓練大会（総合優勝 第5分団）                     |
| 20日   | 大曲・仙北・平鹿農業視察研修（大曲市、神岡町、大森町視察、一般参加者72名） |
| 21日   | 第一回ママさんソフトボール大会（14チーム参加）               |
| 25日   | 市郡消防訓練大会（総合3位）                         |
| 26日   | 八塩で「少年自然教室」開設（小学六年生、67名参加）             |
| ※     | 役場特設消防隊結成（隊員17名）                       |
| 8月15日 | 町成人式（該当者百39名）                          |
| 15日   | 畠山忠志さん「日中友好秋田県農業青年の翼研修事業」で中国へ          |
| 24日   | 町追悼式（於・有鄰館）                            |
| 28日   | 足場組み立て等作業主任者技能講習会（町内39名、町外11名）         |
| 28日   | 小学校宿泊訓練（於・台山周辺、五年生72名参加）               |
| 29日   | 町政座談会（於・克雪管理センター）                      |
| ※     | 八塩開拓道路改良工事始まる                          |
| ※     | ボツメキ林道開設工事始まる                          |
| 9月2日  | 第12回町民運動会（於・台山グラウンド）                   |
| 3日    | 国道一〇七号線改良期成同盟会総会（於・有鄰館）                |
| 14日   | 町の社会福祉を高めるつどい（於・有鄰館）                   |
| 10月1日 | 台風16号、農地農用施設被害四カ所                      |
| 7日    | 衆議院議員総選挙（投票率86・40、県内10位）               |
| 27日   | 町生活文化祭（於・有鄰館、朋楽荘、公民館）                  |
| 29日   | 東由利中学校校門建設                             |
| 30日   | 東由利中学校10周年記念式                          |
| ※     | 黒沢に担い手センター（研修集会施設）完成                   |
| ※     | 祝沢・松沢で研修集会施設建築工事始まる（第二次農構事業）           |
| 11月3日 | 町功労者表彰式（小野廣志氏、嶽石伊左武郎氏、佐藤欽次郎氏が受賞）       |
| 9日    | 秋季大火防止訓練田代地区で実施                        |
| 10日   | みどり保育園20周年記念式                          |
| 21日   | 畜産振興対策現地検討会（於・朋楽荘、主催・全国農業会議所）          |
| ※     | 沼・新沢に簡易水道施設完成                          |
| ※     | 永慶保育園改築工事完成                            |
| ※     | 湯出野線舗装工事完成                             |

今年は、四、六三三万円で杉森から大下の間一、一五九、四畝を幅員五・〇に改良。

### 盛大に「第一回・ふるさとまつり」開催

—九月一日—

「ふるさとを大切にしよう」をメインテーマに、失われたふるさと意識を高め、みんなが協力し合って生きていこう——と、町連合青年会では九月一日、東中体育館を会場に「第一回ふるさと祭り」を開催。こどもからお年寄りまで約八〇〇人の町民が、思い出の遊びや伝統芸能、演芸発表などに、「ふるさと再発見」の楽しい初秋の一日を過ごした。



### 石高過疎農道舗装工事に着手

—九月—

昭和四十九年に着工、五十三年度で全線改良済となった

県代行過疎農道石高線（石高・智者鶴間）は、ことしから二カ年計画で舗装事業に着手することになり、本年度は四、四八〇万円で、石高から泡の淵間の二、〇八〇畝を舗装。



### 農免農道根小屋線二期工事に着手

—九月—



農免農道根小屋線の二期工事が着工された。

これは、去る昭和五十一年に着工された一期工事の終点、宿宇中台地内から、長根谷地、

大台、寺山を通って県道橋瀬横渡線の大内町境と接する地点までの延長二、四八〇畝を、総事業費二億三、五〇〇万円を投じ、幅員七・〇に改良整備するもの。

今年度は、五、八七〇万円で中台地内（大台）一、四九五畝を改良。

### 島根牛導入、最終年度の今年は二〇頭

—十月二十二日—



三年間で百頭の県外優良素牛を導入し、町内の繁殖素牛の改良と系統の整理を図ろう——と、去る昭和五十二年頃から実施されてきた島根牛導入事業。

今年度は二十頭を導入し、十月二十一日にそれぞれの農家に引き渡された。

三年間の導入実績は七十五頭。これで一応この事業は終了することになるが、町では、農家の希望も考え合せ、こう

した事業を継続して実施するかどうか検討していきたいとしている。

### 東由利で初めて須郷田でクマ射殺

—十一月九日—

須郷田で十一月九日夜、頭から足の先まで一・八、体重約一二〇キのツキノワグマ雄一頭が、三名の町猟友会員によって射止められた。

「東由利でクマ射殺」は前代未聞の出来事とあって、このクマをひと目見ようとする人たちが多勢ハンター宅に押しかけ、付近は一日中、時ならぬ人と車でごった返していた。

まさに、東由利の歴史に残る一大事件といったところだった。



### 花嫁・花婿対策に結婚相談所開設

—十一月二十七日—

町過疎対策協議会では、深

刻な問題となっている町内の花嫁・花婿対策の一つとして、役場内に「東由利町結婚相談所」を開設した。

同協議会が十一月十六日現在で、町内の十八歳から三十歳までの独身者を取りまとめるところによると、花嫁を求め

る一、二五三名、花婿を求め一、六十七名、婿に行ってもよい一、四四名、となっており、この相談所の成果に大きな期待が寄せられている。

相談所は、日曜・祭日を除く毎日開設されている。

### 牧道沢中線を改良・舗装整備

—十一月—



石高を過ぎて大吹川に分かれる地点から、ダム手前、通称「土取場」と呼ばれる地点までの九二〇畝が、総事業費五、一四〇万円を投じ、団体営草地開発事業の中の牧道整備事業として幅員五・五に

改良・舗装整備された。これにより、同線の延長上にある、町最高峰七一三の八塩山、八塩ダム、いこいの森などの付近一帯は、町の自然観光レクリエーション地域として、大きく発展することが期待されている。

### 宿小・体育館と給食施設完成

—十一月—

今春から工事が進められてきた宿小体育館並びに給食施設が完成した。

これによって、昨年から二カ年計画で全面改築が進められてきた宿小新築工事は、完了した。

なお、食堂の面積は一五六三平方メートルあり、全校生徒が一緒に食事することができるよう給食は、十二月十日から開始する。





↑ 新品と間違えるほどりっぱなりフォーム作品に目を見張る



→ 静かなムードで花イキイキノ

# 生活文化祭

力作 1,132 点展示

## 好評博した演芸発表会

今年の生活文化祭は、町民各層からの力作千百三十二点を集め、十月二十七日から二十九日まで三日間、町開発センター、朋楽荘、公民館を会場に開かれ、延べ約二千五百人の観覧者が訪れ、それぞれ手のこんだ作品等に見入っていました。

また、今年は、期間中日の二十八日には展示公開のほか、各分館やママさんコーラス、ミュージックサークルによる演芸発表、郷土芸能発表、さらに、当節人気のカラオケ大会も日程に組み込まれ、観

覧者の好評を博していました。以下、カメラでその状況を紹介します。

各部門ごとの上位入賞者は次のとおりです。(敬称略)

〈衣服・手芸展(金賞)〉

- ・衣服の部 阿部レイ子(杉森)
- ・手芸の部 遠藤タカ子(新処)
- ・リフォームの部 畑山添(館合新田)

〈写真展(金賞)〉

- ・白黒写真人物の部 小松さゆり(横小路)
- ・同風景の部 なし
- ・同組写真の部 小松昭作(下小路)
- ・カラー写真の部 小松メサ子(下小路)

〈老人作品展(金賞)〉

- ・手芸の部 森川クメノ(中通)
- ・衣服の部 遠藤ハルノ(十二ノ前)
- ・その他一般の部 小野清二郎(下通)

〈発明工夫展〉

- ・町長賞(団体賞) 袖山小学校
- ・秋田県知事賞 畠山浩子(老小四年)
- ・県発明協会支部長賞 佐藤文(老小四年)
- ・小松昭作(下小路)
- ・議会議長賞 畠山幸(袖小二年)
- ・教育委員長賞 小野正志(袖小五年)
- ・教育長賞 小松秀幸(玉小五年)
- ・公民館長賞 小松明(宿小四年)
- ・商工会長賞 畠山紀悦(袖小六年)
- ・農協長

賞 小松一久(東中二年)・大日向商会社長賞 佐々木良一(宿小三年)・マルティー秋田社長賞 鈴木郁子(袖小六年)・発明同好会長賞 畠山明(老小三年)

### 〈俳句展〉

- ・選者賞 (鷺谷白城子選)
- 天ノ鈴木白洋(舟木)
- 地ノ鈴木白洋(舟木)
- 人ノ内山静浦(中通)
- ・互選賞 天ノ高橋秀月(横渡)
- 地ノ小笠原亮子(蔵新田)
- 人ノ小松鉄牛(下通)
- 小松一柿(湯出野)
- 高橋秀(横渡)
- 阿部澄子(蔵)
- 小松女沙(下小路)
- 鈴木たかや(沼)



→ 今は見ることの少なくなったわらぐつやわらぞうりがいっぱい



→ チビッコ発明家による大人顔負けの見事な作品が数多く出品



↑ 今年から新たに日程に組み込まれたステージ部門も好評を博す

# 畜産振興の具体策は

## 全国農業会議所 本町で現地検討会

水田における集約的、組織的な飼料生産の推進方策について——を課題に、十一月二十一日、朋楽荘を会場に「畜産振興対策現地検討会」が行われました。

これは、水田利用再編対策における飼料生産の定着化を図るため、転作対象田の集団化、並びに稲作農家と畜産農家の組織化による飼料生産の具体的推進方策を検討し、今後の畜産振興に役立てよう



具体的な畜産振興策について、約4時間にわたり熱心に意見交換

からは、町長始め産業経済課長、関係職員、農業委員会、農協農産課長、それに、和牛組合、酪農組合などの代表者七名、が出席しました。

会では、地域における農業生産の状況、水田転作における飼料生産の状況、飼料生産の組織化、水

——と、全国農業会議所が全国一五五県で開いているもので、秋田県では本町がその会場に選ばれたものです。

当日は、主催者側から、石川晴日全国農業会議所調査部次長、井上和衛明治大学農学部教授、佐藤鉄太郎秋田県農業会議農政指導部長、富樫敏満同指導部長、県側から、鈴木畜産課長補佐、尾留川本庄農業指導センター振興係長、斎藤同普及専門員、町

田転作における飼料作物の栽培技術、活用状況、農地の集団化と土地改良などについて、約四時間にわたり熱心な意見の交換が行われました。

この中で、転作をすすめるにはまず土地の汎用化、つまり田畑輪換可能な土地基盤の整備を図ることが第一条件であり、労働生産性の向上を図るには、牧道の整備、機械の集団化組作業形態といった共同利用体系を考慮しなければならぬ。また、生産の拡大を

図る一方、当該町村だけでなく、郡内、県内といった広域的な地場消費拡大といったことも考えていかなければならないのでは、など、本町の畜産振興を図る上でも課題とされる数多くの意見が出されていました。

全国農業会議所では、全国十六カ所で開催しているこうした意見交換の内容を一つの冊子にまとめ、今後の畜産振興に役立てることにしています。

## 納税意識を高めよう

### 標語募集に85点

町納税貯蓄組合連合会（小松与惣雄会長）では、税への理解を高めようとして、町内各小学校の六年生を対象に「納税意識を高揚させるための標語」を募集しました。

集まった作品は、税金や納税に対する子どもたちの素直な感覚が表現されている八十五点で、そのいずれもが甲乙つけがたく、審査にあたった同連合会

役員や役場税務課職員らを悩ませました。

厳選な審査の結果、入選十一点には秋田県納税貯蓄組合連合会長賞が、佳作十一点に本荘市由利郡納税貯蓄組合連合会長賞が、これに次ぐ作品十五点に町納税貯蓄組合連合会長賞がそれぞれ贈られました。

同連合会ではこの標語を広く町民に周知し、一層の納税意識の高揚を図りたいとしています。

入賞者の氏名及び作品は次のとおりです。

（入選）

・税金完納  
笑顔でくらせる町づくり  
渡辺 茂（住小）

・納税は  
明るい社会を作る基  
佐藤待子（住小）

・納税で  
日に日にのびる東由利  
畠山紀悦（袖小）

・みんなが納める  
みんなの税金  
みんなの暮らしを  
高めよう  
佐藤美由希（玉小）

・完納してみんなで築こう  
住みよい町を  
八島直之（老小）

・汗と努力の税金で  
発展めざせ東由利  
遠藤 一（蔵小）

・完納で大きくふくらむぼくらの未来  
父さん母さんたのんだよ  
笹本信幸（蔵小）

・子供の幸せ願うなら  
笑顔でおさめよう税金を  
工藤重子（蔵小）

・お父さん  
となりにまけずさあ納税  
小野真理子（宿小）

・住民の  
安心な暮らしは納税から  
佐々木ひろえ（宿小）

（佳作）

・税金は、みんなのくらしを  
左右する  
鈴木 力（住小）

・税金を  
納めてわかる町のよさ  
佐藤文香（住小）

・税金は  
みんなの幸せ守ります  
安倍幸子（玉小）

・よびかけて  
税金完納町づくり  
大場智賀子（玉小）

・私とあなたの税金は  
すみよい郷土を造ります

・税金を  
おさめたわが家  
明るい家庭  
高橋 一（老小）

・ひとりひとりの納税で  
明るい郷土を造ります  
佐藤博之（老小）

・町税は  
豊かな町政約束す  
大沼 聡（蔵小）

・あなたと私  
にこにこ笑顔でハイ納税  
柴田聖子（蔵小）

・納税パッチリ  
心スッキリ  
大日向文子（蔵小）

## 交通事故なくして明るい新年を

年末の交通安全運動 12月1日～12月10日  
飲酒運転追放強調県民運動 12月1日～12月31日

- 1 歩行者、自転車利用者の事故防止
- 2 安全運転の確保
- 3 飲酒運転の徹底追放

### 運動の重点

# 須郷田でクマ射止める

## 東由利では前代未聞の出来事

須郷田でツキノワグマを射止める、東由利では前代未聞の一大出来事——県内各地でクマの出没が話題となっている中、十一月九日午後九時二十五分頃、須郷田の小松宇一郎さん宅裏にクマが現れ、家に近づき危害を加えそうになったため、連絡を受けて駆けつけた佐野良太郎さん（跡見

坂）、小松栄吉さん（八日町）、阿部和雄さん（杉森）の町猟友会員が射殺しました。このクマ、頭から足の先まで一・八メートル、背一・二メートル、胸囲一・〇四メートル、体重約百二十キログラムのオスで、前日八日には隣部落の「滝の沢」の人家に近い畑に現れカキを食い荒し、当日早朝、夕方には小

松さん宅裏のカキの木に三度も現れ、付近の住民に恐怖感を与えていたものです。小松さん宅には、クマ射殺を聞いた同部落や近隣部落の住民が、夜遅いにもかかわらず多勢詰めかけ、地に伏したクマの姿を見、「これで一安心」と、ホット胸をなでおろしていました。

クマは、その晩のうちにハンターの佐野さん宅に運ばれ翌十日の午後から解体。胃袋は、生態調査のため県林政課に届けられ、皮は町で譲り受け、剥製にして展示、保存することにされました。

↑町で初めて射止められたクマをひと目見ようとする人が多勢ハンター宅に押しかけた

←射殺した、右から阿部和雄さん、佐野良太郎さん、小松栄吉さんの町猟友会員



また、十日の朝からは、旧村時代を含め東由利で初めてと言われるこの射殺されたクマを一目見ようと、町内各地区や隣町の雄物川などから多くの人が佐野さん宅を訪れ、付近は一日中、時ならぬ人と車でごった返し、まるでちょっとした博覧会場を思わせるにぎわいを見せていました。今年四月から県内各地ではクマの出没が相次ぎ、その補護（射殺）頭数も十一月十日現在で二百六十七頭と、過去最高だった四十九年度の百七十四頭を、わずか半年余りで大中に上回る史上最高の記録を更新しています。

## 宇戸坂から現職町長二人

長谷山さん 北海道の町長に



40年ぶりに会った小松町長と固い握手を交わす長谷山町長（右）

まさに異常としか言いようのないこの多くのクマ出没の原因については、エサ不足や生息地である山奥まで開発が進んだことによるストレス説など、いろいろ言われています。

初めクマと対面し、わずか四メートルの至近距離から射止めた阿部さんらは、「……引き金を引くときにはさすがに緊張した。射殺後の気持ちはちよつと複雑で、何と表現しづらいか……。しかし、も

う二度とああいった場面にはあいたくない……」と、一歩間違えば死に結がりがねない体験をした感想を、ことば少なに語ってくれました。

十一月九日午前八時四十分、北海道空知郡上砂川町の長谷山英夫町長（五十歳）が役場を訪れ、小松町長と面談しました——とこれだけではニュースにならない出来事。

身で、しかも小松町長と同じ宇戸坂出身と聞けば話は別。所は違っても、同じ部落から二人の現職町長が出るといことは全国的にもめずらしいホットな出来事として関係者を喜ばせています。

長谷山町長は、昭和十四年、十四歳で家族と共に玉米村を

離れ北海道の現在地に渡り、翌十五年に三井系の炭坑に就職。二十九年から労働組合の仕事にタッチ、四十二年から五十二年までは労働組合組合長を務めました。そして五十二年、政治にはずぶの素人ながら、その温厚誠実な人柄と指導力を買われ、周囲の人たちの推挙を受けて町長選挙に初出馬、対立候補との一騎打ちで見事当選を果たし、現在に至っているといえます。

四十一年ぶりに小松町長に会った長谷山町長は、在村当時の同級生だった役場小松総務課長、畑山産経課長も交え、昔の思い出話や家族の近況など、話題の尽きることなく話の花を咲かせていました。

現在、全国各地で活躍している本町出身者が数多くいます。長谷山町長もその一人。同町長の一層の活躍とともに上砂川町の増々の発展を祈るものです。

## 長谷山氏に勲六等 地方自治発展に貢献

昭和五十四年秋の生存者叙勲で、本町の長谷山千代蔵さん（七十五歳・地下の沢）は、地方自治発展に貢献された功績により勲六等に叙せられ、



勲章を胸に喜びの長谷山さん

単光旭日章が授与されました。同氏は、昭和二十二年四月に玉米村議会議員に就任されて以来、昭和五十一年七月まで、通算二十一年の長い間議

会議員の職にあり、この間、教育民生常任委員長を歴任するなど地方自治の発展に努められたほか、昭和三十三年十月から三十七年九月までは東由利村教育委員、三十四年九月から三十七年九月までは教育長として教育行政も担当、教育振興にも尽力されました。また、玉米農業協同組合理事、旧玉米、東由利の村、町農業委員の職にもあつて、町農業の発展にも尽力し、昭和五十三年の町功労者として表彰を受けています。

## 佐藤氏に林野庁長官賞

全国育林技術コンクール



表彰状と記念のトロフィを手に喜びの佐藤さん

本町の佐藤与吉郎さん（七十二歳・館西）は、昭和五十四年度全国育林技術コンクール・個人の部で、栄えある林

野庁長官賞に輝き、去る十一月五日、皇太子殿下、同妃殿下の御臨席の下に福岡県宇美町で開催された「第三回全国

育樹祭式典」において、表彰状並びに記念のトロフィが贈られました。同氏は、四八〇畝（人工林率九〇％）の所有山林を経営し、スギとキリの混植保育技術を研究して経営の中に取り入れており、これが高く評価され、県内はもとより県外林家の育林技術、林業後継者の学習の場となり、本町はもちろん、多雪地帯における林業振興に大きな功績を残しています。

また、こうした五十年にわたる林業振興功労で、去る昭和五十二年春の生存者叙勲では、勲五等に叙せられ、双光旭日章が授与されています。

## 佐藤さん（老小）に県知事賞

第28回県発明展

チビッコ発明家大活躍



県知事賞を受賞した佐藤文さんの作品「自動消火器」……火が燃え上る前に熱でビニールヒモが溶けるとともにブザーが鳴り、消火液が噴き出る。

審査の結果、特許の部で大日向貞弘さん（大琴）が仙台通商産業局長賞、佐藤文さん（老方小四年）が秋田県知事

第二十八回県発明展が、十一月十六日から十九日まで秋田市の協働社本店で開かれました。

同展には、本町からも、小学生四十点、中学生一点、教職員二点、特許の部一点、合せて四十四点が出品され、參觀に来た人たちの人気を呼んでいました。

この発明展は、県内の隠れた発明家の作品を一堂に集め、広く県民に知ってもらおうと、社団法人発明協会秋田県支部と秋田県が毎年聞いているもので、会場には今年、県内各地区展で選ばれた発明マニアの自慢の作品三百三十九点が出品されました。

本町関係の入賞者は次のとおりです。（教称略）  
〔仙台南通商産業局長賞〕 大日向貞弘（大琴）〓水道用充填式発電装置  
〔秋田県知事賞〕 佐藤文（老方小四年）〓自動消火器  
〔秋田県教育委員会教育長賞〕 遠藤育英（宿小三年）〓便利なタオル掛け  
〔河北新報社賞〕 安倍正（玉米小一年）〓防水布地の利用  
〔N・H・K 秋田放送局長賞〕 畠山浩子（老方小四年）〓ブザーつき安全器  
〔A・K・T 秋田テレビ社長賞〕 畠山幸（袖山小二年）〓くつほしき  
〔財団法人・斉藤憲三顕彰会賞〕 小松一久（東中一年）〓便利な子守帯  
〔発明協会秋田県支部長賞〕 畠山章（老方小三年）〓便利な電気ドラム  
〔発明協会秋田県支部長奨励賞〕 佐々木仁美（宿小三年）〓簡単に掃除できる兎小屋  
・小松明（宿小四年）〓安全確認標示板  
・佐藤多美子（老方小六年）〓ずれない手ぶくろ  
・小野正志（袖山小五年）〓星座観測器  
・石綿伸朗（宿小五年）〓改良しゃもじ  
・鈴木郁子（袖山小六年）〓室内じょうろ  
・小松昭作（下小路、袖山小教員）〓自動給水機。

出かせぎ者の皆さんへ

## 年末・年始上京バスを運行

町では、出かせぎされている方々に、今年も次により東京―東田利間の年末帰省バス、年始上京バスを運行しますの  
で、ご利用ください。

記

〈年末帰省バス〉

・出発日(東京発)：十二月二十八日、二十九日、三十日の三日間。

・出発時間：午後七時(東田利町到着は翌日午

前七時の予定)

・乗車場所：東京都港区浜松町三ノ五 浜松町

バスターミナル

〈年始上京バス〉

・出発日：昭和五十四年一月六日

・乗車場所及び時間は次のとおり。

舟木発 14時30分

大琴発 14時35分

蔵発 14時40分

老方発 14時45分

玉米発 15時

田代発 15時20分

黒淵発 15時30分

上野公園着(7日)6時30分  
〈申込み期限〉

・帰省バス 十二月十日

・上京バス 十二月二十五日

〈申込み先〉

・役場 出かせぎ相談所へ

〈乗車料金〉

・帰省・上京バスとも六千六百円(五十五年一月五日、六

日の両日中に納付していただきます。)

## あなたの灯を少し高く

歳末たすけあい運動

に協力を

恒例の「歳末たすけあい運動」が、今年も十二月一日か

一日につき三千円(自宅で見守り等以外の者の介護を受けている場合は、千五百円)

●支給期間及び支払期月

(1) 支給期間は、申請書受理した日から、介護料を支給すべき事由が消滅した日まで。

(2) 介護料は、毎年三月、六

## 重度後遺障害者に介護料

事故

家族の負担を軽減

が、それ以上の意思の疎通は不可能である

(2) 受給資格者又は受給資格者を現に扶養している親族の前年の所得金額が一千万円を超えるときは、その年の九月から翌年の八月までの間は、介護料は支給しない

●介護料の額

口、自力摂食が不可能である

●介護料の額

ら一か月間にわたって全国的に行われます。

これは「みんながそろって

明るいお正月を」をスローガ

ンに、赤い羽根の共同募金運

動(十一月十二月)の一環とし

て、十二月に限って繰り上げ

られるもので、運動の進め方

は、町、社会福祉協議会、民

生児童委員や自治会長を中心

に推進される地域単位のた

すけあいと、NHKがテレビ

・ラジオの放送を通じて全国

的に呼びかけるものと、二本

立てとなっています。

昭和五十三年度の当町にお

ける歳末たすけあいには、総

額三十五万一千五百九十八円

の義援金が集まり、低所得世

帯や長期入院・入所者に全額

配布し、非常に喜ばれました。

恵まれない方が、みんなそ

ろって明るいお正月を迎えら

れるよう、関係機関では、皆

さんの心暖かいご協力を望ん

でいます。

あなたの灯を少し高く

かがけてください。恵まれぬ

人たちのために――ヘレン・

ケラー

## 55年度学生募集

県立衛生看護学院

秋田県立衛生看護学院では、

次により昭和五十五年度の学

生を募集しています。

〈募集科目と人員〉

・保健科 五十名

・助産科 十五名

・看護科 第一部 四十五名  
第二部 二十名

〈受験資格〉

・女子で、文部大臣又は厚生

大臣の指定した看護婦学校又

は看護婦養成所を卒業した者

(昭和五十五年三月卒業見込

の者を含む)。

〈願書受付期間〉

・保健科 昭和五十五年一月

十六日～一月三十

一日(当日消印有

効)

・助産科、看護科 昭和五十

五年一月五日～一

月十五日(当日消

印有効)

受験手続き等詳しいことは、

秋田県立衛生看護学院(電話

〇一八八―三二一六―六九)

にお問い合わせください。

## お詫びと訂正

十一月一日発行二九六

号の三ページの「統合問

題の経過」の記事中「54.

4・26議会協議会…」

また、「1・24 教育委

員会(住吉・玉米・蔵・

宿・袖山の3校統合方針

を確認)」となっていま

すが、「52・4・26 議

会協議会…」、「1・24

教育委員会(住吉・玉米、

老方・蔵、宿・袖山の3

校統合方針を確認)」の

誤りでした。

お詫びして訂正します。

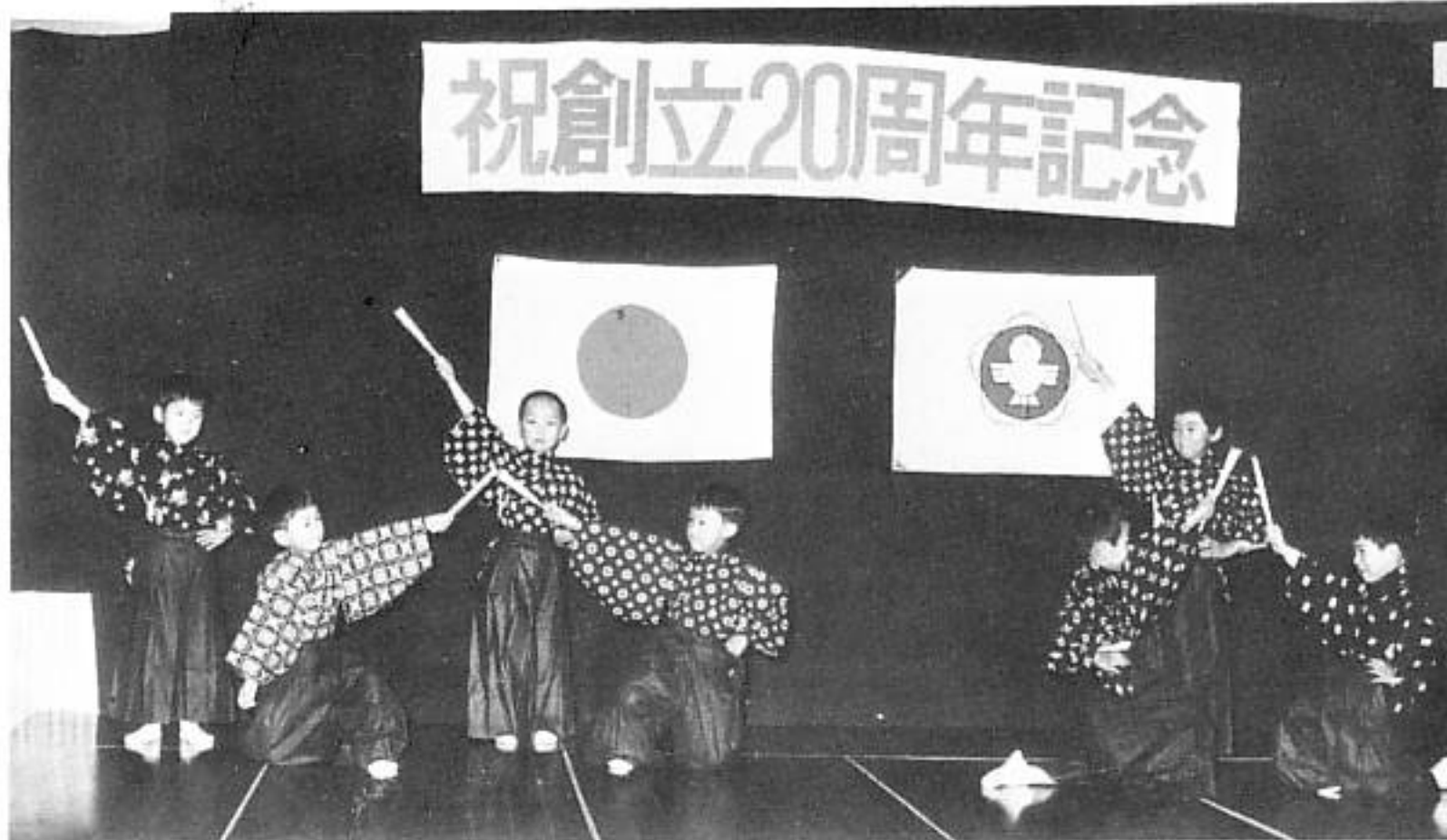


| 町の概要 |                                    |
|------|------------------------------------|
| 人口総数 | 6,405人                             |
| うち男  | 3,144人                             |
| うち女  | 3,261人                             |
| 世帯数  | 1,461戸                             |
| 面積   | 148.51km <sup>2</sup><br>(54.11.1) |

## 創立二十周年を祝う

### みどり保育園で記念式

社会福祉法人玉米福祉会(遠藤繁理事長)の経営するみどり保育園で十一月十日、園児や父兄、来賓など約百五十名が集まって創立二十周年記念式典を行ない、保育園誕生満二十年を盛大に祝いました。



ゆうぎや鼓隊演奏を披露して保育園誕生満20周年を盛大に祝う

式典では、園児たちがこの日のために練習を積んできたゆうぎや、大太鼓、中太鼓、小太鼓、メロデ、イオン、ベリリラによる鼓隊演奏を披露、集ったおとうさん、おか

あさんらは、我が子のかわいらしい一挙一動に目を細めながら、大きな拍手を贈っていました。

同園は、蔵の永慶保育園より一年あとの昭和三十四年六月二十九日、玉米会館(旧玉米村役場庁舎)運営のための一つの事業として創立、故小松一三園長以下職員四名、園児三十三名で開園されました。

このあと、昭和三十八年にはへき地保育所の指定を受け、施設の充実を図るとともに、五十一年には、定員六十名の法人立認可保育所となり、職員も七名に増員され現在に至っています。

この間の卒園生は七百七十八名に及び、卒園生二世が通園するまでになりました。

人間の成長段階において、ものを考えたり、記憶したりする能力の約九割が生まれて四〜五歳までに完成されるといわれ、人間形成の上からも最近特に、この幼児保育、幼児教育が重要視されてきています。

こうしたことから、地域住民は、人間でいえば満二十歳の成人を迎えた同園の今後の限らない発展に、大きな期待を寄せています。

### 社福だより

故長谷山武美氏のご遺族(地下の沢、長谷山悦子さん)



子供たちにとって、テレビは生活の一部といってもよいほどで、ほうつておくとも何時間でも見ています。ちよつとやそつとでは離れられないような魅力が、テレビにはあるようです。



そこで、毎日の生活の中で何時間、どのよううな番組を見させ、子供の成長にプラスさせていくかがお母さんにとって大切なテーマになります。

まず、視聴時間——つまり一日にどのくらいの時間をテレビにあてるのが適切かというのですが、これはいちがいにいえない問題です。

年齢や家庭環境、生活のパターンなどによって違

てきますが、仮に時間を決めるときは、子供との納得づくで、しかもお母さんとの「約束」という形にするのが一つのやり方です。

また、「時間制」ではなく、見る番組をいくつか決めておくのもいいでしょう。

いづれにしても、ガラガラといつまでもテレビにしがみ

### 自分でコントロール

できる自主性を育てよう

自分ではコントロールできない自主性が育つように気を配りたいものです。

さて、番組の選択ですが、子供には子供の世界と生活があり、一方的に「マンガはダメ」とか「活劇はよくない」といった、おとなの尺度を押しつけるのは感心で

きません。おとなの目にはくだらない番組と映っても、子供にとってははげましになったり、がまんすることを覚えたり、情感を豊かにする内容のものもあります。

また、番組の一部に感心できない点があったときなどは、子供がそのままうのみにしないように話し合う機会を持

ちましよう。そうすることで、母子の会話のチャンネルがまた一つ増えることにもなります。

テレビの普及が家庭だん

らんの場合を奪った——などといわれて久しいですが、これもお母さんの工夫一つで、逆にテレビをだんらんの素材にとりあげることのできるのではないのでしょうか。



おしあわせに

- 木嶋 久一 (横 渡)
- 小松 昇子 (黒 沢)
- 小松 和男 (智 者 鶴)
- 高橋 美佐子 (須 郷)
- 小野 源一 (湯 出 野)
- 東海林 悦子 (雄 物 川 町)
- 加藤 辰男 (高 屋)
- 加藤 節子 (湯 出 野)

- 伊東 定一 (新 町)
- 小松 良子 (新 崎)
- 小松 涉 (山 崎)
- 嶽石 洋子 (五 海 保)



10月21日〜11月20日



おめでとう

鈴木美沙 舟打場 政雄 長女  
小松旅平 中通 喜久雄 長男

### 冬道は百面相・スリッパ事故に注意!

・お悔み申し上げます  
長谷山武美 地下の沢 50歳  
小松 俊清 八日町 66歳